

『かたらい広場』

日 時 平成26年5月12日（月）
午前11時～午前12時
会 場 龍ヶ崎市役所市長室
団体名 おしゃべりサロン（6人）
市 中山市長 松田室長 大久保室長補佐 佐々木課長補佐

【主な意見の要旨】

○団体

- ・龍ヶ崎市は、高齢者が外出するための交通環境が整っていない。
- ・高齢者になると車を運転することができなくなるので、交通環境は切実な問題である。

○市長

- ・周辺市町村でも同じ問題を抱えている。対策として、市ではコミュニティバスを運行している。また、制約はあるが高齢者向けなどに、市では乗り合いタクシーを運行しているほか、NPO法人による移送サービスが行われています。
- ・コミュニティバスは、他の自治体からも視察に来るなど、先進的に進めていると考えているが、これからも他市町村などの事例を勉強していきたい。

○団体

- ・高齢者人口や、認知症の人も増加している。このような状況から、認知症の対策として、認知症の予防を含め、市役所の地下食堂でおしゃべりサロンを開催している。
- ・地下食堂は、借りる時間に制限があり、直に座ることができない。おしゃべりサロンでは、高齢者の方にとって畳の部屋の方がリラックスできることや、利用者から食事を挟んでほしいとの申し出があることから、市役所の畳の部屋を借用したい。

○市長

- ・高齢者の方に対して、シルバーリハビリ体操を開催している。会場が身近な地域の集会場で、参加者からは大変好評である。全ての地域に集会場があるわけではないが、集会場には畳の部屋があり、集会場をご利用いただくということも選択肢としてあると思う。

○団体

- ・介護予防の観点から、閉じこもりの高齢者を家の外に出させるような施策が必要である。
- ・高齢者向けの認知症講座などを開催するのも良いと思う。
- ・介護保険は、保険料の問題で入所施設をこれ以上増やすことができず、在宅での介護が求められている。在宅介護を進めるうえでは、認知症対

策を講じることが重要である。

- ・グループでは、地域で活躍できる元気な高齢者が増えればと考えている。

○市長

- ・ますます高齢者の数が増えていく、入所施設の数にも限界があり、在宅介護が必要である。

- ・定年を迎えた団塊の世代の人たちに、地域活動に参加をしていただいて、その中で認知症高齢者へのボランティア活動に目を向けてもらえればと思う。

- ・市では、地域の人たちが共に支えあう支援社会を目指していきたいと考えている。

○団体

- ・認知症の在宅介護をするうえでは、徘徊する人への対応が必要である。
- ・大牟田方式のように、地域住民が一丸となった、徘徊する人への対応が必要がある。

- ・徘徊する人が、家の外に出ても安心していられる地域環境が必要である。

- ・地域、学校、警察などが連携して、認知症による徘徊者への対応が求められている。

- ・現在は、核家族化が進み、家族の中に高齢者がいないケースが多く、子どもたちが、普段の生活の中で高齢者とかかわる機会がなくなっている。子どもたちが高齢者と係わる機会を設けることが必要である。

- ・子どもたちを含めて、認知症を理解してもらうための講座などを定期的に行うことも必要であり、また、行って欲しい。

○市長

- ・大牟田方式について、勉強していきたい。

- ・子どもたちへの認知症講座などについて研究していきたい。

○団体

- ・認知症を持つ家族は、大変な思いをしている。地域の支え合いが必要である。

- ・家族が認知症の高齢者がいることをオープンにできる環境になれば、地域の支え合いが可能となってくると思う。

終了